平成十年度　第三学期期末考査、第二学年理科

一）第一分野　電流による働き。

●（電流×電圧）で表される量を（　　）という。
●電流による発熱量は、電力に（　　）し、電流をｔ秒間流したときの発熱量Ｑ［ｃａｌ］を求める式はＱ＝（　　）と表される。
●電気器具などで、一定時間に消費した電力の量を（　　）と言う。
●磁石の力を（　　）と言い、この力が働く空間を（　　）と言う。
●導線に電流を流すと、導線のまわりに（　　）状の磁界が出来る。
●磁界の中電流が受ける力の向きは、磁界の向きと電流の（　　）で決まる。又、流す電流を強くすると、電流が受ける力の大きさは（　　）くなる。
●コイルの中の磁界を変化させたとき、電圧が生じる事を（　　）と言い、そのとき流れる電流を（　　）と言う。この電流を強くするには、磁石を（　　）く動かしたり、コイルの（　　）を多くすれば良い。
●一方の向きにだけ流れる電流を（　　）と言う。又、向きや強さが絶えず変化している電流を（　　）と言う。

二）第二分野　天気の変化。

●空気の重さによって生じる圧力を（　　）と言い、（　　［記号　　］）と言う単位で表す。
●快晴・晴れ・曇り等の天気は（　　）を観測して決める。
●風が西から東へ向かって吹いている時、風向きは（　　）の風と言う。
●一日の間で、気温が最高を示すのは（　　）、最低を示すのは（　　）である。
●一日の間で、気温の変化は湿度の変化と（　　）的である。
●１ｍ３の空気が含むことの出来る最大の水蒸気量を（　　）と言い、（　　）によって変化する。
●気温が下がって、空気中の水蒸気が（　　）し、水滴が出来始める温度を（　　）と言う。
●１ｍ３の空気中に含まれる水蒸気の量が、飽和水蒸気量の何％に当たるかを示したものを（　　）と言う。
●性質の違う気団が接したとき、その境目を（　　）と言い、これが地表に接している所を（　　）と言う。
●寒気が暖気の下に潜り込み、暖気を押し上げて進む前線を（　　）、暖気が寒気の上に緩やかに這い上がりながら進む前線を（　　）と言う。